

平成 30 年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（豊岡市分科会）
会議録（要旨）

日 時 平成 30 年 10 月 5 日（金）
豊岡市分科会 16:00 ～ 17:00
場 所 豊岡市役所 3 階 庁議室
出席者 豊岡市分科会 6 名中 6 名
事務局 豊岡市（政策調整部長、政策調整課長、政策調整課課長補佐、政策調整係長、政策調整係主任）

◎協議

分科会長

ここから私の方で進行させていただきます。よろしくお願ひします。事務局から定住自立圏の取組内容の進捗状況について説明をお願いします。

事務局

<説明> 【定住自立圏の取組内容の進捗状況】

分科会長

事務局から説明を受けました。今の説明を受けて質問等がありましたら、お出しただければと思います。

分科会長

特にご意見・ご質問等ありませんか？

では、(2) 共生ビジョンの変更について。共生ビジョンの変更にあたっては、この懇談会が協議・懇談の場となっており、この場での検討を経る必要があります。忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

事務局

<説明> 【共生ビジョンの変更について】

副分科会長

例えば新旧対照表の 1 ページ目、旧で市立診療所の充実とあって、目標値が 1 日に 22.1 人、これは今回のでも変わらないということで、現状値だけがちょっと変わった。それで事業費がどれぐらいになったかというと減っちゃっていますよね。33 年度計画の事業費の 3 億 1,200 万が 2 億 2,200 万になっている。これはどういうふうに見たらいいですか？

事務局

事業費につきましては、毎年度その年の、基本的には当初予算に書き換えをしております。昨年策定した段階では、29 年度額を基本に 5 年間同じ額としておりました。今回 30 年度予算を組む段階で、この額になりまして、それに合わせて 31 年度以降も修正しています。

事務局

たまたま診療所を改修するとか、大規模な機器の更新とかがありますと、もっと金額が増えることになります。運営費だけで出していないので全部の維持費を出してしまっているということがありますので、こういう傾向が出てきます。特殊な、あくまでも診療費と人件費だけにするとか、ちょっと作り直す方がいいのかもしれませんが。特殊なものを除くということを考えられるかもわからないので。一度検討を今後の課題とさせていただきます。

副分科会長

2 ページ目「歩いて暮らすまちづくり構想の推進」の目標が変更前が 5,000 人、これが変更後は 2,700 人となっていますが

事務局

制度が変わりまして、以前のものは登録制だったので増える一方でした。新しく変わったものは報告制ということで、その時実際に運動した人の数になってきますので、目標値が変わっています。

(委員)

5ページのいちばん下ですが、「Uターン推進事業」の説明ですが、指標自体の見直しはどのなのでしょう。このままではあまり意味がないような。もっと違う、例えばUターン率とか、高校生で卒業して行って、また帰ってきた。何%帰ってきたというような、そういうのを指標にしたほうがいいのかと思います。

事務局

指標につきましては、最初に設定したらそのままということでもなく、修正を加えながらというのにも確かにあります。ここ3年の様子を見ていますと、右肩下がりということで、800人というのは厳しいだろうなど、そうなると本当にこれでいいのか、担当課と協議し、変えるべきであれば変えようと思います。

(委員)

IターンよりもやはりUターン。実際に仕事で携わってきて、やはり地域で育ててもらって社会に出ているわけだから、帰ってきてほしいなという思いがある。もっとそういう企業訪問の数ではなくて、もう1つ別の、もっと攻めた数字のほうがいい。30%以上帰ってきてほしいとか、半分は帰ってきてほしいとか。

副分科会長

IターンやUターンの実際の人数というのは把握できるのですか？

事務局

数字は把握してしておりません。

事務局

新規の就職数を市内企業に照会をかけても、なかなか実数値として確たるものというの出にくい状況です。それと、市内企業にお勤めになっても例えば異動ですぐに近畿圏だとか、例えばこちらに本社があっても配転をされてしまうとか。それはご本人の勝手という問題もあつたりしまして、なかなか見えにくい数字だと思います。どこら辺まで確度を上げるのか、一度担当のほうと、Uターン促進をどういう数字の持ち方か、一度研究させていただきたいと思います。確かにブースを訪問するというのは、就職戦線が毎年乱高下していますから、数としてブースを訪ねた数というのはあまり意味がない数字となっています。特に就職戦線などはタイミングが早まったりもしていますし。

(委員)

実際に会場に来なくても、ネットの情報を仕入れてUターンしているケースもあると思うので、数字のつかみ方としてはもうちょっと違う方法があつていいかなと思います。

事務局

先ほどのお話で率ということもあるのですが、率のほうにつきましては、国政調査の5年ごとにそういう豊岡を出て帰ってきたという数字はあるのはあるのですが。

(委員)

Iターン受け入れですけれども、豊岡市さんにとってIターンということでしょうか。例えば養父市から移ってきた人もIターンですか？

事務局

はい。

副分科会長

Iターンの人数は知りたいですね。

事務局

住民票を動かされる方もいらっしゃいますし、動かされない方もいらっしゃいます。就職される方は健康保険が社会保険ですので、住民票があろうがなかろうが構わないというところがあつたりするので、なかなか実数値というのは難しいです。

(委員)

朝来市さんや養父市さんなんかは、補助メニューを使われた方だけカウントするとか。

副分科会長

雰囲気としてこれだけIターンがあるぞ、Uターンもこれだけあるぞというのはムードとして勢いになるので、何かあるといいけれども。地域おこし協力隊みたい

な、ああいうのはいいね。

事務局

地方創生でもそういう指標を作っていますので、そのあたりを参考にしながら、より見えるかたちができればと思います。今後の課題とします。

分科会長

企業さんに照会しても難しいね？

事務局

企業さんはなかなかわからないと思います。ここに勤めても市内に住んでいるかどうかは、企業さん側ではあまり意識されないで、近隣から通勤可能な範囲でということもありますので、数字として見えにくいのかなと思います

副分科会長

この辺の問題も豊岡市の人口にはならないけれども、豊岡市内の企業にとってはすごいプラスですよ。

豊岡は企業が多いから、和田山に住んで豊岡の企業に勤めるというのもあるでしょう。

事務局

通勤圏がだんだん拡大をしています。福知山ぐらいの通勤圏で逆に来られている、こちらからも行かれている方もいらっしゃいますし。

分科会長

学校の先生は、勤務地は豊岡の小学校、家は朝来とか、そういうのはいっぱいあるかもわかりません。それをどう捉えるかという問題もある。非常に数字というのは捉え方が難しいものがあるようですね。他に何か意見があればお願いします。特にございませんか。それでは、みなさん各分野から選出いただいておりますので、その分野の内容でも、それ以外のことで結構です。日頃から但馬地域の定住人口増加に向けた内容やお考えのことかがありましたら、お話しただけたらと思います。将来的にこんな取組みが必要だと考えておられるような希望がありましたら、出していただけたらと思います。

副分科会長

さっき指標の話が出ていましたけれども、6ページの下で、コウノトリ生息地保全対策事業ですけれども、「コウノトリ定着羽数」これはいちばん初期の頃は0だったので、放鳥してどれだけ豊岡の環境に馴染んで定着してくれたかが関心事だったのですが、もう50~60羽定着しているけれども、あまり意味がなくなってしまう、多いとけんかばかりするようなことになるし、環境のキャパシティとしてはもう限界かなと思います。そろそろこれはいいのではないかなと思います。どうすればいいのかわかりませんが。

湿地はわかりやすいと思います。コウノトリというのは日本中に飛び回っていて、今、宮古島で定着していますし、韓国にも行っています。そうすると、豊岡単位で考えるものではなくなっています。いろいろなところに繁殖地を作ろうというふうに移っていますので。地域で、豊岡でと囲い込んでいたらよくないですね。

分科会長

エリアが全国になってしまっているし、下手したら世界になっている。

副分科会長

東アジアね。

コウノトリ文化館の入場者数も増やせばいいというものでもない。28万5千人だから、まあまあいいのかなと思いますが。それよりも文化館に来て、ほうぼうの観光地をずっと行ってくれたらいいんですよ。観光客の全体の入込数がまた減っていましたね。それを増やすことが…なんで減っているのだろう。予算なんかは増えているように思ったけれど。

分科会長

観光をやっていると思うのは、観光客の入込みの捉え方が変わったんです。前は、

例えば4つ施設があったら、1人の人が4か所回ったら4人。そういう捉え方だったのです。4箇所の施設があったら、1人しか来ていないのに4人の人が来たようになってしまう。だから今は国交省の指標ではその係数をかけていくと、下がってくるということがあります。観光客の入込みの動態調査がちょっと変わってしまっている。そういうこともあるのかなと思います。

例えば出石なんかはマイカーの数、バスの数をきっちり把握しています。それに係数をかけて何人乗っているということでしたら、まず近い数字が出てきます。そういう捉え方に変えていかないと、本当に1千万人来ていても、本当は8百万人しかいなかったとか、そういうことになってくるきらいがあるので。いくらでも数字は増やそうと思えば増やせます。だけど、それが本当の観光なのかということなので、若干その辺が問題かなと思います。

平成6年でしたか、但馬の祭典は。あのとき1千万人だったでしょう。あのときは1市18町からパーッと出てきたから。それを目標にと言うのですがなかなか。だから観光客の入込みというの捉え方が非常に難しい。出石なんかはこじんまりと駐車場をきっちり管理しているけれども、例えば日高に行ったら、上と下とあるとか、施設がいっぱいあって離れているしというようなところがありますよね。

ちょっと自分に関わっている部分で、この前ご質問をいただいたのですが、チクタクが今4箇所動いています。但東2箇所、出石2箇所、非常に喜ばれているのですが、ある面で言えば福祉バスみたいなものなのです。でも窓口は都市整備課、交通サイドで動いているので、福祉との連携をしたらもっと利用も上がってくるだろうと思います。特別支援学校があるでしょう、あそこから質問が出たんです。チクタク乗れるのですかと。エリアとしては、私のところのチクタクのエリアにあるので、それは会長が協議してやっていますが、ちょっと都市整備課が考えているのと福祉サイドと違うものだったりして、それは連携できないのかなと思ったりします。

イナカーなんかもそうですね。イナカーは地域住民の足なので、本当は空気が走っているより観光客を乗せたいのですが、できないことになっている。もう少し国の動きが規制緩和で変わってくればと。うちもそういうことは国に声を出していかなければならない話だと思います。チクタクもせっかく走っていても、観光客は乗せられない。竹野でも同じ話を聞いていて、竹野浜へ行くイナカーが走っているのに、観光客を乗せるわけにはいかない。

スクールバスも一緒ですか？

スクールバスも有償運転のバスに生徒が乗ることはOKだけれども、逆にスクールバスに有償のお客さんを乗せるわけにはいかない。

実は今、乗せる対応をするケースもあるのです。ただ、ちょっとややこしいのは、市のほうの課題もあると思いますが、例えば公共交通で通わせようと思うと、今だったら定期券で買われる方が多いのですが、この場合は、市の交通を守ろうということでやっていったら転換していただくのですが、実はここの部分は国からのバックアップがほとんどなくて、財源もあまりない。ただ、スクールバスは安いので、ほとんど費用が国から出るということでやっている。やはり同じような時間帯、スク

分科会長

事務局

(委員)

事務局

(委員)

ールバスとバスとが走っているケースも中にはありますけれども、結局行政のほうからの財源から考えると、両方走っていても、別に財布は痛くないというか。そういうのは別にして、じゃあバスだけとか、スクールバスにお客さんを乗せる、というようなことは、少しずつ進んでいます。

分科会長

チクタクでよく他の地区から乗せてくれ、と言われますが、乗せられないと言っています。路線バスが走っていたら優先しますから、チクタクは走れませんが、例えば出石の町内のいちばん奥の出石高校の奥の谷山の人から、チクタク来てくれと言われても、そんなところは行けないという話になります。バスが走っていないから。そういうものも走れるように増やしていけるのかいけないのかという問題もあつたり。今まで路線バスは走っていないからダメですと都市整備はなりますよね。そうなるとう福祉バスになっちゃうのかなと思いますが。同じ走っていてもいろいろなケースがあるので、特別支援だとか、そのような話があつたと聞きましたので、どうなのかなと。いろいろと同じようなことをやっても省庁が違うし、考え方も違う中で事業が行われているので、というものがけっこうあります。市民にしたら関係ないとなりますが。

(委員)

私は教育というか、先ほども4ヶ月健診に行ってきましたが、思うところは少子化しかないですね、立場上で言うと。「今日はこれだけ？4ヶ月の子は」と。豊岡・竹野・城崎が豊岡会場に集まるのですが、4ヶ月の子たち、もうこれだけ？じゃあ、みんな寄ってと。本当に悲しいお知らせだなと。もうそれしかないです。どうしたらいいのだろうと。豊岡市もいろいろとされていて、出会いのところを健康増進課、何とか策は練られていますが、それもいつ結果が出るのかなと待っているのですが、やはり少子化が一番。シカよりも少ないですよ。

副分科会長

少子化と高齢者だから、年寄りばかりで少ないところにシカだのイノシシだのが出るので、結局獣に追い出されてしまう、人間が。悲しいですね。

最近はでも1人、2人ではなく、3人、4人と生む人も案外増えてきたのではないですか？

(委員)

増えていましたけれども、またこの度、保育園が無償化になりましたよね。そうしたら、働くお母さんが増えてきました。すると今度は、産まなくなる。

また状況が変わってくるのでしょうか。

副分科会長

三江小学校の児童で放課後児童クラブに行く子が50%います。びっくりした。半分です。それもへえーと思ったけど。

(委員)

こども育成課のほうでは、おねがい会員・まかせて会員という、お迎えに行ってください、いいですよというようなものが会員制であります。自分で子育てをしなくてもいい社会に豊岡市がなってきています。

分科会長

出石・但東ではシカの頭数が減っています。やはり猟友会が、ハンターが入ってくれるから、シカはよく知っていて今竹野にいる。竹野が今多いと聞いています。彼らもよくわかっていて、ここは駆除されるとなると移動しているとおっしゃっていました。

分科会長

委員のみなさんから色々なご意見をいただきました。ありがとうございます。他にご意見がないようでしたら、これで協議・意見交換を終了とさせていただきます。

